

■国際奉仕委員会

1992年（平成4年）

北九州市立大学留学生日本語論文発表と表彰をスタート

現在も継続している事業

北九州市立大学国際教育交流センターが窓口となり、大学内で留学生に案内をして参加者を募集

学内でテーマごとに発表する

ロータリークラブからは会長・幹事・国際奉仕委員長・副委員長が参加

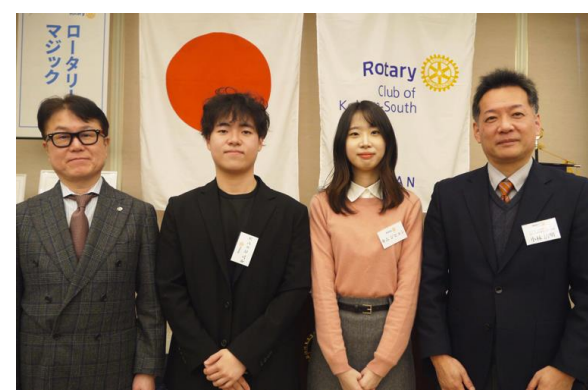
表彰されて留学生が、小倉南ロータリクラブの例会時に日本語でスピーチ表彰されるのは、中国・韓国の学生が多い

懸念事項としては、コロナ前までは例会に出席する留学生が多かったが近年は少なくなっている

15～20万円の寄付の中から、選ばれた留学生の文章を冊子にしているが、冊子が必要なのか検討する時期にきている

コンテストから発表会に変わってきている中で、毎年留学生の着目点・考え方の違いに驚く事も多く、ユーモアもあり大変面白く勉強になる

今後の展開としては、委員会並びに会員の意見を聞いて考えていく所存です



小倉南ロータリークラブ例会にて論文を発表

1994年（平成6年）

タイ・クロント地区スラム街の子供教育里親奨学金個人援助
1口500円で自由募金でスタート



子供達の写真とプロフィール

子供教育里親奨学金個人援助とはどのように行われたのか
タイのお世話をしている事務所から子供達の名簿が届く

一人に対して年間小学生まで：12,000円、中学生まで：25,000円、高校生まで：30,000円、大学生まで：35,000円、援助期間を決めて寄付

里親制度に協力した会員は50～65名に達し、常に会員数の80%以上を占めていた

会員の中には1人で5名を援助する会員もいた

クラブからも5名を援助　クラブ全体で例年60万～80万円を寄付

クリスマスの前に、里親をしている子供達からクリスマスカードにお礼文が入ったカードが送られてきた

長く続いた要因の一つかも



To Members of KOKURA SOUTH ROTARY CLUB

This card comes with sincere thanks for your encouragement for the work of the Daeng Prateep Foundation. There is much still to do if we are to eradicate the inequities in Thai society. But we are sure that with your help, we will achieve our goals. Happy New Year 2013 from everyone at the Daeng Prateep Foundation.

Dr. U. H.H.
Mrs. Prateep Uggongthan Hata
Founder & Secretary General

M. Uggongthan
Mrs. Niggora Uggongthan
Deputy Chairperson

プラディープ財団になってメンバーが2回訪問し交流を深めた



2015年第2回プラディープ財団訪問

国際奉仕事業としてメンバーの参加も多いのに中止したのは、最後に訪問した際、財団の様子をみて里親制度の援助は必要ないと感じたので、2016年クラブとしての援助の中止に至った（個人では2021年まで継続）

50周年を記念してフィリピン・パナイ島のカリボ市にあるカリボ・パイロット小学校に小倉南ロータリークラブはマニラのパサイサウススイーストRC、カリボメトロRCと協力し、トイレが併設された知的障害・聴覚障害教室を100万円で新設



2006年（平成18年）釜山南山RCと姉妹クラブ締結

今年度、国際奉仕委員会として地区補助金を活用しフィリピンのクラーク記念ヒマラヤ小学校に100万円の予算で教室を増築する計画が検討中